

震災時の自助共助意識の実態および地域イベントの参加頻度との関連性に関する研究  
 —保土ヶ谷区和田町を対象として—

1363155 吉岡 佑樹

指導教員 佐土原聡教授 吉田聡准教授 稲垣景子特別研究教員

1. 研究背景・目的

東日本大震災といった過去の災害を教訓に自助・共助の重要性が高まっている。阪神淡路大震災では自力で脱出したり、家族・友人・隣人等によって救出された割合が約9割を超えているという調査結果がある。本研究では横浜市保土ヶ谷区和田町を対象に住民の自助共助意識を調査するとともに、和田町で定期的に行われている地域イベントが住民同士のつながりや共助意識を高めることと関係しているのかを定量的に明らかにする。

2. 研究概要

アンケート調査により回答者の属性、和田町(住民)との関わりかた、地域イベントの参加状況、防災対策、自助および共助意識について調査した。地域イベントの参加状況が和田町(住民)との関わり方へ与える影響や和田町(住民)との関わり方が共助意識へ与える影響をリッカート法(5段階評価)を用いた各選択肢に-2点から2点を与え考察した。

3. 調査概要

和田西部町内会に属する和田町1・2丁目の各世帯を対象に2016年12月にポストイング配布・郵送回収によるアンケート調査を実施した。配布総計1675通のうち299通の返信があった(回収率18%)。女性の返信率が6割、50代以上の返信率が7割を占める結果となった。表1に和田町の世帯数と人口を記載する。

表1 和田町世帯数と人口

世帯数	2167世帯
男性	1919人
女性	2002人
総人口	3921人

4. 分析結果

4-1 自助意識に関する分析

「災害時に自分の身は自分で守れるか?」という問いに対して、7割以上が「(どちらかといえば)自分で守れる」と自助に前向きな回答を示した。次に「防災対策実施状況」と「自助意識」の関係性をみる。「防災対策実施状況」はアンケートで尋ねた防災

対策の実施数から算出した。選択肢とした防災対策の内容と回答数を表2に示す。水や食料、懐中電灯などを準備していると回答した人が多かった。

表2 防災対策の質問項目と回答数

質問の選択肢(実施率)	
・高所に物を置かない(11%)	・家具を固定する(11%)
・災害情報発信アプリやSNSを利用する(7%)	
・防災訓練に参加する(4%)	・避難場所を決める(10%)
・家族との連絡方法を定める(10%)	
・水や食料を備蓄する(19%)	・風呂に水をためる(17%)
・携帯ラジオや懐中電灯を準備する(9%)	・何もしていない(2%)

「自助意識」と「防災対策実施状況」の関係を図1に示す。自助意識が高いほど防災対策を実施していることがわかった。なお選択肢ごとに重みづけはしていない。

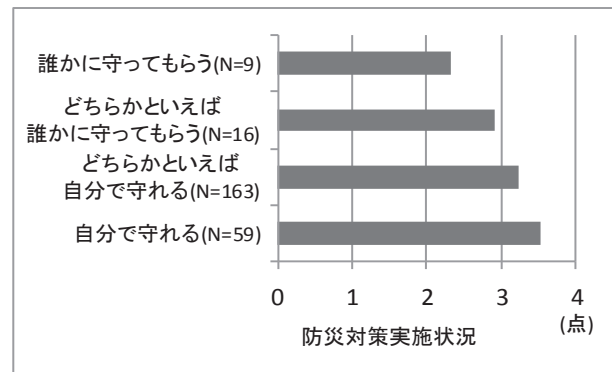


図1 「自助意識」と「防災対策実施状況」の関係性

4-2 共助意識に関する分析

「災害発生時に近隣の救助活動に協力したいか?」という問いに対して、6割が「積極的に協力したい」「できるだけ協力したい」と共助に前向きな回答を示した。「共助意識(協力)」「共助意識(支援)」「共助意識(運営)」の質問内容を表3、回答結果を図2に示す。

表3 共助意識の質問内容

共助意識(協力)	災害発生時に近隣の救助活動に協力したいか?
共助意識(支援)	災害発生時に近隣の高齢者や障がい者などに実際に声をかけて支援するか?
共助意識(運営)	大地震が発生し保土ヶ谷中学校に避難所が開設された場合、運営を手伝うか?

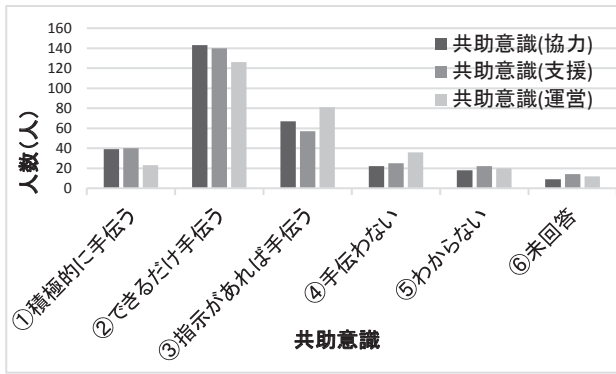


図2 共助意識に関する質問に対する回答結果

「住民同士の付き合いのたさ」と「共助意識」との関係を図3に示す。住民同士の付き合いを望む人ほど共助意識が高いことがわかった。

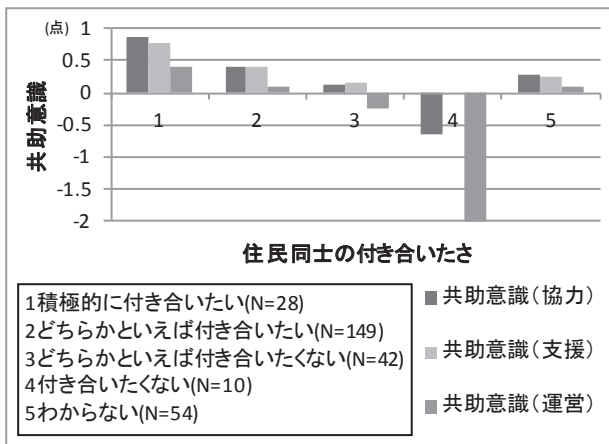


図3 「住民同士の付き合いのたさ」と「共助意識」の関係性

「地域役員の経験」と「共助意識」との関係を図4に示す。地域役員の経験は共助意識を高めることと関係していなかったが、運営面での共助意識を高めることにわずかに影響していた。

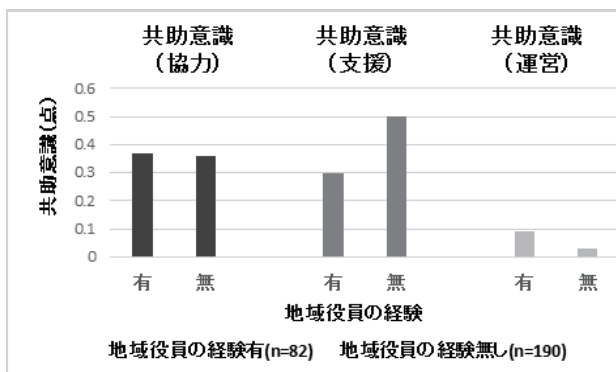


図4 「地域役員の経験」と「共助意識」の関係性

#### 4-3 地域イベントと共助意識に関する分析

「地域イベントごとの参加状況」を図5に示す。他の地域イベントと比べて、地蔵まつりは参加率が高かったが、敬老感謝のつどいや防災系イベントは

参加率が低かった。

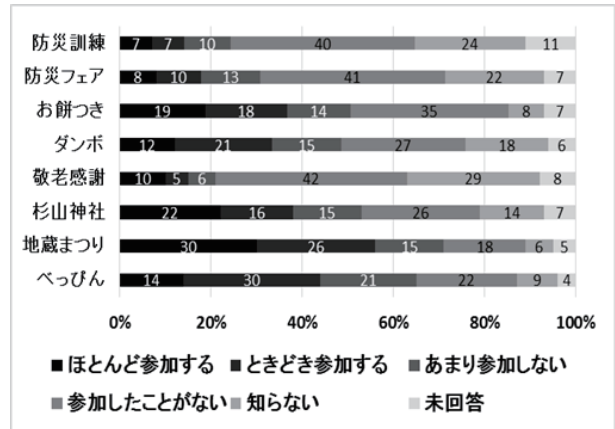


図5 地域イベントごとの参加状況

「地域イベントの参加頻度」と「住民同士の付き合いのたさ」との関係を表4に示す。全ての地域イベントにおいて参加者ほど住民同士のつながりを望む人が多いとわかった。特に敬老感謝のつどいや防災系イベントは参加率が低かったものの住民同士の付き合いを重視する参加者が多い。これらのイベントは少人数のイベントであることや共通の話題や目的を共有するイベントであるため、住民同士の付き合いを深めることにつながっていると考えられる。

表4 「イベント参加頻度」と「住民同士の付き合いのたさ」の関係

	べっぴん マーケット	地蔵まつり	杉山神社 秋祭大会	敬老感謝 のつどい	ダンボふれ あいバザー	お餅つき 大会	防災フェア	地域防災 点検
ほとんど 参加する	1.23 (n=40)	1.03 (n=89)	1.27 (n=64)	1.50 (n=28)	1.40 (n=36)	1.28 (n=55)	1.40 (n=22)	1.55 (n=22)
ときどき 参加する	0.82 (n=88)	0.71 (n=76)	0.79 (n=47)	0.99 (n=15)	0.86 (n=64)	0.89 (n=52)	1.03 (n=30)	1.04 (n=21)
あまり 参加しない	0.64 (n=62)	0.45 (n=44)	0.53 (n=45)	0.85 (n=19)	0.64 (n=44)	0.72 (n=41)	0.93 (n=38)	0.86 (n=30)
参加した ことがない	0.41 (n=64)	0.41 (n=52)	0.37 (n=72)	0.53 (n=122)	0.44 (n=78)	0.37 (n=102)	0.52 (n=119)	0.59 (n=117)
わからない	0.07 (n=28)	0.05 (n=18)	0.35 (n=45)	0.54 (n=85)	0.38 (n=53)	0.17 (n=24)	0.37 (n=65)	0.35 (n=73)
計	0.66 (n=282)	0.68 (n=279)	0.66 (n=273)	0.69 (n=269)	0.69 (n=275)	0.69 (n=274)	0.69 (n=274)	0.67 (n=263)

#### 5. まとめ

本研究を通して和田町の地域イベントが住民同士の付き合いを深めるために有意義であることがわかった。また住民同士の付き合いを望む人ほど共助意識が高いことや防災対策を実施している人ほど自助意識が高いことがわかった。なお本調査のサンプルには偏りがあり、地域イベントの継続度や規模、場所、内容・目的、主催者などを踏まえ分析することが今後必要である。

#### 参考文献

- 1 吉森和城ほか：超高層集合住宅における災害対応力に関する研究 地域安全学会論文集No14 2011年
- 2 松本美紀ほか：実被災者地域住民における地域防災活動継続意図の規定因 日本自然災害学会 J. JSNDS 27-3 319-330 2008年
- 3 横浜市総務部統計情報課 保土ヶ谷区町別世帯と人口